



LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



新聚樓要卷之武拾四



あ
り
場
并
町
火
消
一
件

自寛政九年至文化十三年



十会

は十八日佐渡を統轄で写取いろは組一組限名をまか候お達
於又町内御事拵人合て在久付を候也事付候せ熟ひ故に
中合也人足共文書人の手筋取組も用ひず乃写取役人
あくの主事十事

但定ある一あ組内百四十日行便方宣承百年す

一店年引供場小木入れ在焉候詔ナ今奉事十事付候ま下す
一いろは一組限人合ひえ名前と上姓西内様帳候
并附年次免れは行不そす冊子候萬般詔会冊成内再び
年付候年土持あ相附可す

一經備候あいろは一組限内八日一夜つおあらね候ま下す
一添馬と体照馬と翌日一百一夜つお勤丁十事

佐大纏あ添あく焉り病氣本日組内同ね紙会は良也

会行夷ノ内ニ事西を以て至る事

一泊近寄はお馬付お勤め候少道一組と一日免え御日
走人免え勤下されんやあ纏あもん良ひお馬く一人泊を
ひかる所馬お勤下す事

化派を云ふ者之の主を統する別に主の者も人云下す。

一纏萬添馬添を馬也其勤向く通年延年お勤めするを亦
名えし候并門内おせきやま走場門久付年一か月并門
境候事無き纏萬添馬か勿論下す事

一名主拵灯目下赤輪轂本大低差役之す五位倫太夫
自ケ紋大十九ニす五位位役可ヤリ

但差下漏若役凡一す五位位役之役前年笠縫り赤ノ笠

平ハ五弓程樹可十車

一人足取取目下拵灯と仰角弓張也赤波と其組いふは文字
下ト什可十車

一月行事火うるわまおお役者目下笠前後白の圓三筋
いろは文モあ下ト有りしるみ事面も目下三筋

桃竹ハ是迄しろは文字あ下ト有りしるみ事

笠前後可ヤリ

一中拵灯笠目下と候未月十日迄ち未み役候れむ否未月

土日迄おまこま

一頭取うの以後草羽鐵先拵灯入用と仰一組入用役候

事

但大へえと自ケ仕事と候ハ是と云

一座久附人是の候是皆讀書あり。おを拾以寶珠也。其
有之者曰。其中一物。或曰。此乃爲天祐。而後其處
久有金玉之傳。一月既往。定式。隨之。至是下。然以局
古板今。爲汝事。

改め改めておる
満ちてゐる、古様の事は少く、今、町の空氣も

あくまで彼が全く上り合ひ来

己酉
晦
上

吉善道
いわゆる金龜
車石用吉内首三法
体多病
亦或る七於人

人食を終ひ車場より馬車及支度等外人に見せし合町より支
をせひそもれどもよしと申すにあはひあるを乞ひて之處の金毛毛
車を走らしめ下りておまかせの車を見り
文世法はひのまくと付一萬車又最綺は方以東を走る人多
ひれども右の車は車頭鐵之用沙先は鐵方舟上也人食
乞利方いへて馬車おとせねば人食を消防社より勧め
ねお情で波
左近御行當付ア波

己土月廿九

右 村上肥後守様於伊萬所人を改由比深八番役生因
祐九年辰少万円加友奉次席役右衛門と御在所に及町年老橋
矢左衛門立会にて後日

己土月廿九

一 けを阿少房金子三郎内丸締合は改め候はばかに承人をと
氣を文面蒙相手に取るが事より下りて之を阿少房主事頭町東
因役者と南原村内見本佐政金屋辰年等ひ和吉高田今見
内モ古時之体乃承取不申らぬ又風子西野井平子之名太村元
お筆事

但馬高萬付里

一 東轍山邊出火ノ前也

八番組九番組十番組并一畫組之を完矣門前、お膳下りいそか
内中席の御用火事引境、お膳下り

一 増上寺邊出火ノ前也

二番組三番組五番組もく完矣門前、お膳下りいそか町内房
内中席の御用火事引境、お膳下り

一 瓢箪山高麗人外洋用ノ前八名代者共お付典服ち社
沙車の御用火事引境、下りお仕え奉上臺上
右ノ通中上古及上

己土月廿九

町内中席の御用火事引境、下りお仕え奉上臺上

右の御用火事引境、下りお仕え奉上臺上、名代者共お付典服

此度附火消之役後は併付先月晦日より会事西ノ側
於此より後も従事有り少佐は總會内通し候ハ智也見合て
其の会日既終すアリ也

一名之地灯を備丸地灯を上に混じ不互替、或も丸形放り高
は方のあ後は通漏大サニオト候本サカト仕てよか至る者
其方のれ後は通て

一既えれ灯と候角丸地灯を赤らむ墨、而前を方へ向組と下
以方にて五は所外

一阿波人等とじろは文字ニヤ大サルニすか不伝にて先づ
古く通先古傳する行又は人をもアキテ内序儀てのこと

十一月二十六

牛郎玉井屋

十合

一府並名々ハ其大組一軒とせ甚て後小組ハ其町ノ名々と内
五年りお出力、ナシ今一組としせ候不段

此おわせ法アソ名々モセ候アリお喝ツシ方たゞ通

一組会惣令人食人列帳候を招うる前事改テ下車

一火消及食主九納用木せ活て候事

一あ火拂人足怪あすき外送交あひくらひ久年半車
但出旅手て候仕事と通テ役事

右府並人世活事ナシと毎年九月大組お会お生湯御用膳

方事と候事は九月ナシアリ會才半車

一縦尚書ノ役

典及否と縦尚書付小組一組掛門アリ前不把名々

吹番二日一夜の尚番相続下さい并小組会二組と組入跨り
会合より会ひる、至モレ方門付下車

吹場所、お支配括りあがる太く通番年、兼々勤日、多
めもどりを名くる尚番おとし一方航行あり、又は又
半拂不下船公宣表れ平会車

一添番之事

一防鳥渡之事

一近道番之事

一之二年一下番組限、又於公宣表れ平会車

一加勢之事

一は底經番添番在馬附注進省まで役並あり番、併名會車
を度附か第と經番が第と二タ分、一番追附於公宣表れ平会車

一諸場所取扱之事

譬へ一轂人令清早出でお仕事欠く良い組は組上組六箇
年馬づ吉慶上組万組和泉馬六部格究あれ月お仕事傳
有くノ筋走以某事お火方角より大組一脉、そ究あれ法
場不違私古作てする

一人足革取巾法被之事

其俗葱根内ハ革取巾と云ふ有外太朴、場不違法
被ちて有ノ傳付何見工作後、因人足と見立根生根、故
会合處根折而れて人公事

一序曲輪内お少く前之傳六天明七年正月後之席、再
吟味波アヤツ車

右之通す会合以上

己土月

卷之三

中
會

他完あつて一あはれに「九斗は乞ひ届け方更れ百斗」下す
一人乞ひ九斗と書く底紙極其の向年
其の上紙本を他内に其典を絶て其が付次下す事

名を托灯丸形より國下毒湯緊將大行方未寸步有
致大凡或する度以下

皇清五經之傳

一人足頭兩目下批打威角弓張、白髮赤皮、いろは組を玉ぐる
正雨社下奉書

一月の事は火やあれ事はお役者用意する所は
文字大字で書く事は、お下仕すれ打へきよしにあは文字ある事
多き事ある事も、内にいれ以てお化す事
一月の事は火やあれ事はお役者用意する所は

此方名曰海藏火消丸助之令其水氣散之使
店上治下中寒

紫苑町大内勤方へ御用奉事御内事付也。」也話高町
あまりれど所は有く先づ町人消去毒氣也。也御也御御内を
もひれどよ死に候是達。主事之世話あがひらず候。そく月井
彦也御後西世話高町おと左立方ハ一高也。玉萬也达ス。也御
組高志門丸世話高町おと松谷又角也御成也。年也御
もも精良宣教方、辰巳世話高町。右脇也掌也。也御アヤシモ也。也
詔萬高志也。也掌を多モ也御アヤシモ也。也御アヤシモ也。也
也御今火店也。もえどもえど也。也相毛もおちよ前、アヤシモ也。也
右通鳥占也。也御アヤシモ也。也御也御定也。也御
呉也御よ也。もえどもえど也。也御也御也。也御也御也。
上組也御也御也。也御也御也。也御也御也。

右の通所放十ヶ町、仕事奉事所、少筋の奥ノ内堀お切、火
有^リ、矢連村お通月数々、次ノ内堀(お達)よ
一二番地、内世佐野町或ノ内堀今ノ年お切、世佐野番町お達
告

一二箇粗火清々新規被復入用之細組合肉小方割仕事事
一大塊而當組合肉小方割者少之於燒助飯既免波入用仔細者
至其去組合肉小方割而入用一粒多者勿屬大塊而當之限
總合肉小方割者少之於燒助饭是口滿波入用未識之者
大塊而當用其事者少之合而細割合仕

古文天朝十事年上也一統れども上也小組合占也今納
少く所れを内に候也小組合也一萬圓店舗者立候者有事
ト通す候て相続主没至也此方甚久也上也

歲在癸卯仲夏
廿九年
之丙寅
同人同

九月廿五日上

寛政九年十一月

内威同 源左衛
連右衛 右衛

中合

一所火消是遠火小火之前半日多有失火後又之行又以
吉田酒井法有之者遠火小火之云無人足矣三十万束す
一火標也てあがめ火場近道並行あ馬付之候すて所十未年十月
作保証紙を以て之通十分会ひる

南八金板橋邊近

少半車九丁目邊近

東八淺草大復院のあ邊近并車所

西半葛西小川門邊近未年以也門

新高祖河口今

少半船達格東八神田門面

南北芝園五百邊麻布十萬半唐戸門赤坂邊近

西半麹町筋所辺

右方角石やくら八成半境合經人乞志佐治酒毛高名毛
毛塙合泥毛丁成毛

但柱門及大火引火大了外遠火引火鐵壁十石保南山
吉高祖或高祖家高造鐵金毛毛邊半高祖毛毛保鐵

山車門今戸邊口或高祖毛毛保鐵一處て皮事

一上即搭上寺酒革山山角方角毛高文庄生毛毛毛毛毛毛
方角達毛毛毛支場而又毛途牛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛

不半船アハ車

左通十会毛又達失本役下下車

己酉月

内失房事體

名記

い組内は是迄出火、良組今火を見精は瀧の私打より支
以半が火有る為知り其瀧わく上縁を右前門に柏子建
て此ノ壁かへた、セ明度合、其縁と名門に、中お
此方を通す施下さむ無限也運也以上

土有

か友助左つ

明因熟次第

典方用少消一件付多佐波山有木左通取締十合

一典前柏枝取板、施合食改版并下方共、是迄捨除未度
至右火有近附、火櫛燒後、近左傍以屏、左おを捨ひり、更
は右側一向裏後、上右捨清并右を捨ひり、候、策右口、左お
止幕右右相接、通取締、左通下右火取丸板上右施合食改版
下方人足右門内と交狀取至、施合も以後給合、是け以後
人足共合力無、亦總合右端未仕あし前見、未扱て入用、人
足共合施合内、モノをナムモ、ちる取用、右未事

下文

一年内外、火未改版出半引説場、右のて人足共右施合
右本丸名前を以人數を改版、左内、右丸名前共
同事ナ付、左人足共改丸、内行事及よみ付大行手

を心の爲納す事

此年以内に某人前事より拂ひ納す事

亦書し通取扱ひ後人足先おせ場より不正考人足先おせ

子連名前お納き合取差手を拂ひ事より年後事す事

已三月

世法事

上題

人足取

詫

本れ一處

五事也と同様

何時

何時

二

下方人足

拵合取

詫

一

何時

何時

二

拵合取

詫

本れ一處

五事也と同様

所火消人足負成候候是迄捨置八百完生乞教典貯政九共十
立夏後押固主事文家後是只松木取手候を被り下屋解ナサム
相手而上手は改統ナ有リ此中地主者と連或ノ及般令或其文
又六改請一呈文後右極以去一年半均無事候内へは皆其
人乞之方と善候右耕丸板山乞退てハ町入用塔堂等ナキナ必定
之候地主と板谷井門向高橋本村押移り等を候以塔主と被り
不主候与年寛改院共下方而之方本不引届主事直以之而承
候其出所法もみくらぬ事あ除事主事若改為生外人足生主事
社主事主事主事主事主事主事主事主事主事主事主事主事

右付一組内に門口人足空請本甲にて五共一軒、其あ殿方支拂
有リ又改免空請人足共十事を文清生等を運動して改請
彼是も町主事近事主事見合後能無事あり候後文空請主事

書く出あはれと執り人を押さるを爲と開てせしと又開ても執
能勅并段を極めの所一度で其令其が降ておそく松川す
よく厚付以迄行方をすらもおらずされ候事

一月近松待八百文位生ち失ふ亦歸宅まゝ候時を生じ候事
是後押通一百三十五文では此候年夫を候事ヤ一月近

内人経候段一月

右暮年三更文令通一百百文にて尚モ七角あ火も之
を申すと左ノ内人お火モ火消モ行燈もみとる者御一日或る文
角山也取は日雇れぬ取ひ居る文で毎日平均五升すれ
テ持立物も有り奉る我は改進若狭守太田波下方
さんを丸手申候、下方六町内なりおまかうを是處を示
主翁下す風吹先を押す内人をもたけん是正統也斐ひぐ内

不宣改め努力を期す以下内もて又由サ吉久所在小五
由引の件向之より他處へ發送する車ハ竹門又砂門ハ
三番組たとえ毛豆の車、有りて其處に運び返付
キキ跡も入又彼乞西幕府御事御事御事御事御事御事
府大今さう合せると故併候今夕十時ノ頃アリテ
瓦敷石席は無一も多

二月十日

内人令實歲月中近通一角三更文てし極甚に松川す
承れおまく執り内人役委細内人之内候事
母候令通候内人一ヶ年を又後へ捨候或法被又

股引半斗高あらそお穀と仕賣院半斗をもと付用松の又
付是事の事を定め松にハ終所の事と仰取物の事と
十俵を出で一月三度支合極ひ候とすと改めて
大内を松山城内に移築と極ひ候とすと改めて松
人食便く諸侯を会すり候と有り之を改め松山に改め
附肉を拵ひ候と改めて松山に改め候と改め候
人食甚き事と改めて松山に改め候と改め候
中後承て仕候すと今と有り候は也

二月十九

父と叔の御事無事と而よ御用圓下御坐と見候付先

紀吉年賜所小様丁表を付之席ある板上ド門補門十左限先
月四日松与吉處あらそ正所今持去る事多々御用
比風送ゆるも右角馬追と御令付と有事馬追と右
活了事付

寛政九年

二月十九

大合

阿火消ノ後更衣ノ後汲水ノ人全頭瓦キテ革羽織古汲水外施
塔抱人足下法被股引半斗松汲水ノ事と右事と候と
年又ノ間年御観以至一古くおみが八半斗故付主を委
拂貨物未入流主有勿論御観乃と申さ右解と之用事

上級

世信書

おもひて辰相國の御飯を食候先年六月下旬は被と
余人を用ひてちや場の口爲付申すまことに内へ合之
正月内見あらゆる方の御用に因るて販賣掛貿易入出
取扱支拂院は是に十日間を経過して年一せんと件方
才會終入する所古内へ出候て販賣物、販賣者名を記入
す後又各所の船頭に附す者有るが其處にて支拂院の運送
支拂院より達はれ支拂院坐處アリ又事

但ちに旅終改元を以て度て毛手

元年正月十八日

志野義

上宿町に於打番地主又番主と申す一郎五郎と申す者にて
其住居町に其姓番号年一佐

阿少浦人乞去口福の上申事大革尾傍又大造未令此處
御奉行旅入古能江來人乞去口福の上古能江走波義典役方
役方名主事江波義典平渡限南走古方御旅御共限方
七日達中失清組合人乞去口福下達旨之渡方御限方屋主

寛政十一年

二月十九

内友与市布
荒川市布有
左村洋市布
渡邊庄太郎
山口庄太郎
本村定山布
久保勘三郎
善房年三房
助田也次郎
加友助左郎

人足改取差役令語又改九五動之付也八月立入用差
足兵候本於外有之由太後令勿滿入用多給一曰不期上
少而送兵多外給改九五及子退六銘其改令本於未
終兵交以備不可有之以付般令改立候自年而丁是
執以去也附本府使去候上一反寃而即有打在馬尾
中等之候以年人足改之而內外附者年內附者八指別
改令本外改之并移協不可改支改加名委代
之本足兵也附本府使詳義上本末反斗而革

寛政十一年

七月

月書

行軍

新去原町抱

人足改

清早原天町抱生庄

日不

休閒町抱生庄

金子郡

大東人高四月移於大原居吉原町火消人足改取差付
充各之以御之除多抱合下木之付外給名之而於之本
改之可改是又年改以吉原町吉原名之至本而西之付
改而達于以上

寛政十一年

五月

三書

行軍

町火消番頭用
に復名す

神田扁札用

る管所 保育所

支那地内に復町火消番頭代及邊境邊有^一方古里
者あ次^レ子母子に組合^スシ子連並附消防^ス事處^アす^ル右改
改^ス後主^ス方組合^ス者^ヲ情^シ下^サズ

支那地内に組合^ス者^ヲ情^シ下^サズ

年十月九日

太^ル肥怪^ス様^ア出^ス高^タ人^ノ改^ス生^ス因^ス林^ノ原^ス木^ノ居^ス
舊^ニ有^ス居^ス處^ノ是^ク今^ニ改^ス居^ス處^ノ又^ス左^ノ以^テ改^ス通^ス

大有^リ更^ハ名^ナ下^ス

町方信地又店信波在^ス其家^ノ家来自^ス居宅^ヲおゆ波^ス
古家^ノ店^ノ替^ス清^ス後^{有^ス}其^ノ上^ノ右^ノ曾^シ何^{方^ノ}主^ス并^シ其^ノ夫^ス
波^ス前^モ尚^シ人^ノ并^シ町^ノ有^ス之^ノ改^ス置^ス付^ス終^スト^ス公^ス太^ル信
方^ノ左^ノ十^上右^ノ

一^テ於^ク町方^ノ居^ス左^ノ信地^ノ店^ノ其^ノ家^ノ方^ノ改^ス東^ノ并^シ古^ス店^ノ東^ノ醫師^ス
之^ノ宅^ノ改^ス西^ノ并^シ其^ノ夫^ス有^ス之^ノ改^ス古^ス家^ノ方^ノ改^ス
家^ノ改^ス西^ノ并^シ町方^ノ信地^ノ店^ノ改^ス之^ノ町方^ノ改^ス又^ス改^ス之^ノ町^ノ改^ス
方^ノ改^ス之^ノ改^ス之^ノ改^ス之^ノ改^ス之^ノ改^ス之^ノ改^ス之^ノ改^ス之^ノ改^ス之^ノ改^ス之^ノ改^ス
而^シ之^ノ改^ス之^ノ改^ス之^ノ改^ス之^ノ改^ス之^ノ改^ス之^ノ改^ス之^ノ改^ス之^ノ改^ス之^ノ改^ス
自身^ノ改^ス西^ノ店^ノ改^ス其^ノ改^ス付^ス町方^ノ改^ス之^ノ改^ス之^ノ改^ス之^ノ改^ス
改^ス名^ス并^シ改^ス名^ス之^ノ改^ス之^ノ改^ス之^ノ改^ス之^ノ改^ス之^ノ改^ス之^ノ改^ス
呈^ス灰^ス上^ノ改^ス名^ス之^ノ改^ス之^ノ改^ス之^ノ改^ス之^ノ改^ス之^ノ改^ス
汗^ス灰^ス上^ノ改^ス名^ス之^ノ改^ス之^ノ改^ス之^ノ改^ス之^ノ改^ス之^ノ改^ス
汗^ス灰^ス上^ノ改^ス名^ス之^ノ改^ス之^ノ改^ス之^ノ改^ス之^ノ改^ス之^ノ改^ス

主ひ人近幸宅も古宅より久経り武家方のままでしも主人より
お見え仕官お出で候おこひはひたすら候可ひと我方ある儀はる
所方往來て武家方の家事有り所へおき入太使ひ若くんに並行
方の古物おほひえりがい候お手とお匪くわあ高麗の候はる
候た何れお大すおれお邊立本有り前ひもお居を面ち事
字アミル死父美阿方お馬車を走事御事父が生れ五ヶ候お
尚仕候ともまむちも用意先名を乞方、而も武家方の事と候是
併き所方往來て武家方宅おちせ不及す走事お邊立者もひが前
書く西京を再び会合をあらが、所尚所、通所候十上候お處
近在寺

化阿方往來て所用達所人止能役志と孰れか家人方尚人并五仕ある

と邊立者も前もお家立所候上所方お接使て下旨候

仰年土井吉尚出役而も手筋を乞ひ候事有り通一統古
事記の所年土井出用達所人止能役志と家人方邊立者云所
所出役不外宿候も之を以て所用方往來て武家方の事
不及す右用達所人止能役志と家人方共千字をお次候て所年
方の古物か八九百石を所候む因相邊立者は度故に大古物乞
候或事方の如くおまじ所用達所人止能役者臣承東方、乞
又其支所方の如く所取斗二所方、字を前半と通名を并給會名乞之三会
モ名乞之おまじ所用達所人止能役者臣承東方、乞
右通武家方家事も候はばれ也尋ね候造し名乞之を南人也、
お手こすり所取斗二所方、字を前半と通名を并給會名乞之
并門、名乞之所用達所人止能役者臣承東方家事も宅もおまじ所用
例用、名乞之所用達所人止能役者久経り武家方の事も主ひし

別のあ源は附上上段上

寛政十年年八月

忠年萬

名主共

左文其方當有左門宅をあると新井跡上原町人左毛木お丈仕立
名を並び金を以て大和太陽五城改めあへる少く松子妻翁お寺
に在れ候事あたし御命仕事候す上毛邑令自火五度を日接
足内一號夫此も古跡ハネヤ上以大門方領居事本中事モ外
支流医ナカニ本文之通名モ左大橋五城事下シ家をより口を取
牛山作有^シ所モ南人今も左主人是法主院方^シ届してゆき候付
紙自生^シ草葉坐^シ左行見一通出新井上原事^シ候付

別紙前書付

一寶曆二年九月二日曉七時頃本左新井大令改役後左庄師
納川田原處居宅構内不向史仕外類候至^シ左新井月紀事文

總名^シ八角右^シ店^シ左^シ利^シ清^シ右^シ櫻子^シ左^シ上^シ右^シ行
革^シ又^シ左^シ右^シ利^シ清^シ右^シ御^シ前^シ一通出新井上^シ出文^シ也^シ左
此^シ清^シ令^シ左^シ御^シ前^シ也^シ左^シ家^シ利^シ清^シ左^シ大^シ始^シ來^シ事^シ也^シ
因^シ口^シ半^シえら^シ御^シ也^シ左^シ又^シ左^シ利^シ清^シ左^シ上^シ紫^シ破^シ左^シ角^シ也^シ
一定曆十七年九月廿日夜八時比坂町内是般师店用達町人桔田
平左衛門^シ左^シ發^シ左^シ向^シ大^シ隣^シ家^シ斗^シ衣^シ燒^シ休^シ名^シ新助^シ左^シ家^シ
家^シ右^シ櫻^シ左^シ左^シ來^シ左^シ事^シ上^シ新助^シ左^シ櫻^シ下^シ通^シ
御^シ前^シ也^シ左^シ上^シ金^シ左^シ玉^シ左^シ左^シ安^シ新助^シ左^シ櫻^シ上^シ加^シ
但^シ如^シ左^シ新^シ付^シ也^シ修^シ也^シ御^シ前^シ也^シ新^シ方^シ左^シ也^シ左^シ
此^シ御^シ前^シ也^シ自^シ新^シ度^シ也^シ新^シ方^シ左^シ也^シ左^シ也^シ一通左^シ也^シ新^シ

一寶曆辰年土月廿六日南太工所新^シ御^シ世^シ也^シ能役^シ也^シ津尾^シ也^シ

寛政九年七月十四日
深川車師田家之丸成地
總括因之原株也復多加修葺反其宅
茅草者而移就之他所
がくく傳傳とす清風紅葉の如く年々
秋の名を有す之公私に尤れ故紫
あ青瓦納山林中之孤木也其間
は其の傍に之を置かし故も此所甚難
会合を失下通御事既く古跡上
處の如きを多加修葺其處に也又
馳方一丘を爲せ也其地也

右筆此如内家本所持半支也。此中之筆は前出又配達。左方
あや仕合と云ふ事半ばも御用事の筆也。右筆は前出又配達。
左方

年八月

芝
三

名句

右半世子村夫右之皮也網付近言書

中
今

向火消門定季向書版

午
十
月

一寛政九年十一月廿日付と承認するを立委ちせん
確附許進退役人足りハ多々進退に確次方にて改就上六店
朱門を守城候事有り而後造隣の有堅者も以是見論す
シれど下役人足りて取締為令内改就役付在候者
持奉革職候て役を用ひ役付をかく降萬石を添拂候
固くお供場所へ従をし名を又ハ拂ある、お供ひ侍下私取候
世話為名を本太助方より奉候候地打合手筋付人足りて候
之候付と行後り左席へ通入候あもて下奉

附許定朱門候隣組、大内より朱門より阿佐、大内より朱
引城を主計年引境、お供ひ下私取候ね了ば奉

一東巖山并堵上寺あ中間ち丈二尺完あつ前、古法也下私古行
先在中已古行後派右東巖山邊あ失前ハ八番延九番延十番

總兵寺高組うち古東巖山寂あつ前、古法古外組を及大内、
大内並引境、右供ひ下奉

一堵上寺辺布火、乞は式番組と番組と番組と分堵上寺、完あつう
古法共外組を及大火、大内並引境、右供ひ下奉

一堵上寺辺布火、乞は式番組と番組と番組と分堵上寺、完あつう
古法共外組を及大火、大内並引境、右供ひ下奉
内に火、或ハ風飚要あり、領見定ひ上れ前也、内と古法共
一堵曲輪、小門附番門辺、大内、大内、天明七年十月後後、前
番組二番組と番組又番組大内、体、完あつ堵曲輪、右供
兵主火、古法とて文兵、御城内、貞筋不宣兵、ハ完あつ、古法萬石
ノ内、相付下奉

但右室事は曲輪不付、古法萬石とて又三年内、行後通下奉

一 善町邊ち火ノ木之年終後通此間はま前也亦近古
佐千車

一 南侍善町近本ち火ノ木之年終後通此間はま前也亦近古
寛保之年四月終後通下五段

一 佐千火消ノ改寛政之年終後通外も之寛保止火消下有
寛考ニ之所又七所也之火消下有消防事多之有は所之有
あはれ之会する不改移はる所之有は所之有は所之有
場ある表長尾根後方を切る建並いに所棟を隣り下有
難い有定火消場所はあと一往舟と備内火消人足立有下
中立人或ち口火之面板に造有場所ハ新見いと隣り下有定
火消所火消桿並ひ上云火消舟と共裏に通次土手にて水ノ所也
道より前後左右勿論去處下長屋も軒の下ア不ア近退

一 善不正威ノ船で波立たし角田輪軸おち火ノ木古文書
漏れも亦之通ひ有之不造放火者多々之波立合て有之革
一 お火ノ舟用火車場

一 佐少姓也少姓方山城同下至納代漏海其裏金之三夜中九
把行赤白綾文之崩石と通ひ此造之船布一出船寛政下有
年四月廿七日波立通お波立下有

一 火車場山見と方法有馬有之波立火口火ノ木波立有之万所
伊勢行橋也有馬山と有火火車場は實也方之門を之消防か
將改て車

一 火車場之用者一切不在哉其家之有法石有之波立分漏
法漏橋も亦万波底場也持者有之有之有之万所
寛政下有

升年也船へ西櫓下車

空も通也空へ執事生立役入空おも勿論施文付夫人空
連系新社の空少少消防道具空いたて人掛調度空お邊持
あむ去處店人空其内腰機空勿傷衣松樹葉火空お機向
又下馬傷ひ空あくまおを生の法これ空か及空松葉空
空の空火空会事馬鹿く綱絲波五月御奉生立萬古行
走すも主教大ナ会事もお傷下車

佐方角追遠失小失一色接也多事ナ松葉又想人空も神

ナ食事六十

年十月

寛政十

十一度

出失有空生奉車場尼元本馬空少次第町人空少消防了事行
丁立空少有阿涉事行方佑之馬空上る少有阿涉事行方佑之馬空
空少有阿涉事行方佑之馬空少公車場見空尼空少行
空少座席子空消防空拭以接丁立空阿涉事行方佑之馬空少
是空空少有支道少少少事空通空接丁立空

但消防空少有取空少少少事空通空接丁立空

竹原

本事空通空少九兩年正月十日空少向後承行空接丁立空
年板空空少故志脚段者空少空少有改行行方接丁立空
名田仲事行所空少行後空少止空少送半空少本事空接丁
空少馬空少火消防空少接丁立者空少空少空接丁立空少

予少清絕今所行處亦通也未嘗不復之使
亦文德有得者無人是改元則僅以是也文而生其辰是下

寘改土革年

卷之二

中游源大席
而林友去
加友助左之
橋尾之舟左之
和因源七
太始也十席
矣欲些事房
佐之方源八

尚
肩八合 肥者有樣出秀弱者亦尚用者壯弱而用少者全失之
改生肉於九角皮之序以之也以繁者也
而角丸自今之西方也若肉之生方也而人全失不特七指也
海一統了平通也

御本丸奥より方々通じて同丸板橋
也色たゞひよく通じて之等以上

仲村云在牛

南門奉行所也病極床あゆまきの店若代山病室 桧原九郎左衛門
山ち馬る与力内へおほき石室有り此處と仰付
在く筑町やも着本心ひらずりは廻向中風はまくと船れ

卷之九

內編

是近お更に正神國橋下築金河岸堅太町通而側を定火消
消防持場境、右に氣吹坂、左に阿寒通西側武志走坂を持
場境、左極方を告て有り

一、近用火消銀二所内附、武志走坂八消防、古藏年賀清
左喜了通火場所は武志走坂を境、相成る事多矣。又
阿志境自古走坂、未だ有り未消防也。右ノ新御会門下築段
平合

右ノ通路段走坂也。他組阿志下西川告急行派走坂
内復修候件

申八月

阿志防

いよほに万組

右通天明八年八月山村屋敷内築段急行復共

左ノ築段火消銀二所内附、武志走坂於清尚不
終、二所外武志走坂ち生々前も荷木以降至合戻一組
右ノ築段火消銀二所内附、武志走坂於清尚不終

宣政土木

九月十日

月番

右ノ通路段走坂也。又金井、金太郎、安志波底仕合内附
終事上合

九月十日

享保七年十月組合火消銀今近用火場境、左極方
右火消銀二所内附、武志走坂、未正鋪蓋半度至合戻一組
五組合阿志走坂、武志走坂之奉玉、又江原町人之早走坂

附諸手筋阿古鶴又山縣天明八申年八月仲秋丙午諱余
所居堅大工町通西側を也足火消お馬場と有江外以東之
三面裏通武之庄をお馬場傍と左極ひ方其の名て存是町
火消組合二丁目ある武士を友をも消防れ抜本火消去奉事通
玄橋下今度武士庄を境、お馬場也之處、今度門を境
同上ある火防組合ては筑町也、今度後左他組合
右下通多良佐、度り共也町史消去役二所ある武士庄を宜
其多良佐、度り共也町史消去役二所ある武士庄を宜

近少く候付此處不義あるを細々と申す事無
障本も幸い消防仕事は併せ内府

寛政十九年

中通也道すひぬまへて
九月廿五日

南少林年譜

松平加賀守安房守宗家の火消は人役を以て至府左衛門と一室堂火消の事専門付ひ候。此度の佐倉の内後防へ教若ち不及て、而して近府太旅尉の御額持退て、俄れて之處に去る。間年若ち少く前田守源吉が御執事にて松平守の御会限人と毎月約束す。

兼ひトキニテモ、定名名を失へトノ因

左通之役，有如是乎？

寶政土末年十一月十四日

日仍如

是日
李子
之都
新華
定次席

お春を今
かく様伊勢所
おお有田とお左近の
お通すやうに
お波幻たまはるたまはる
お紅葉每人のそよぐ
お扇の花也此会は月の事お扇
の事よりて國の事よりて

卷之三

九連一元

火事多きにあつて町火消甚だ忙
いとる者多きノ事根は人體も胸も方丈事一軒も忙
才体も有る者多き事ひの間も以て左村(久)子
付近行けり成る
幸甚也少く有る事無く之を度て左近事
一南に背あ觸れ少く免れ左近事根は右脇
一

甲子

中興今之勢既已安矣
復有此危也

五月七日

神田
行幸
年高

右近ノ事付中止

一新革尾町名屋定次席小柳町月勘前十七日之河内町百役去
奉年五月申教燒後右附河岸通少少方同格有通日年三月中
丈除扇地之上元坪通代地城下立下至米安院左立治右
代地半下通則同路之河内町百役相唱中以如右米安院左立治
役是此一軒定出火消方之店橋場、店應承門吊橋源西之通
之河内町百役、右號設去奉米安院左立治燒萬一火灾本是此已
若混雜して仕哉付以奉右内門、候八室出火消方之店橋場右
門也右代地之左立治燒萬一火灾本是此已
支度之河内町百役相唱中以如右米安院左
牛久後以通以奉定出火消方之店橋場、右號守所右厚
候八室出府以附右河内町者共一町十石共取坐付中止

寃汝十二年三月

新年在所
名之
宜次而
小林所
月
幼虎

御書院

拂者去南門大口小津南所多友固之府在東之好之亦布质
望多為生安院尼先立近之河内吉百之原以壁定北之清方
持拂者故之守是云降也昔之外君每月右内丸上和光降
多之使才也之有不氏之通元也也下也也也也也也也也也
之也之也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也
之也之也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也
之也之也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也

申酉月廿二日

四三四	四三三	四二二		
四三四	四三三	四二二	日	四三五
四三四	四三三	四二二		四三五
四三三	四三三	四二二		四三五
四三三	四三三	四二二		四三五

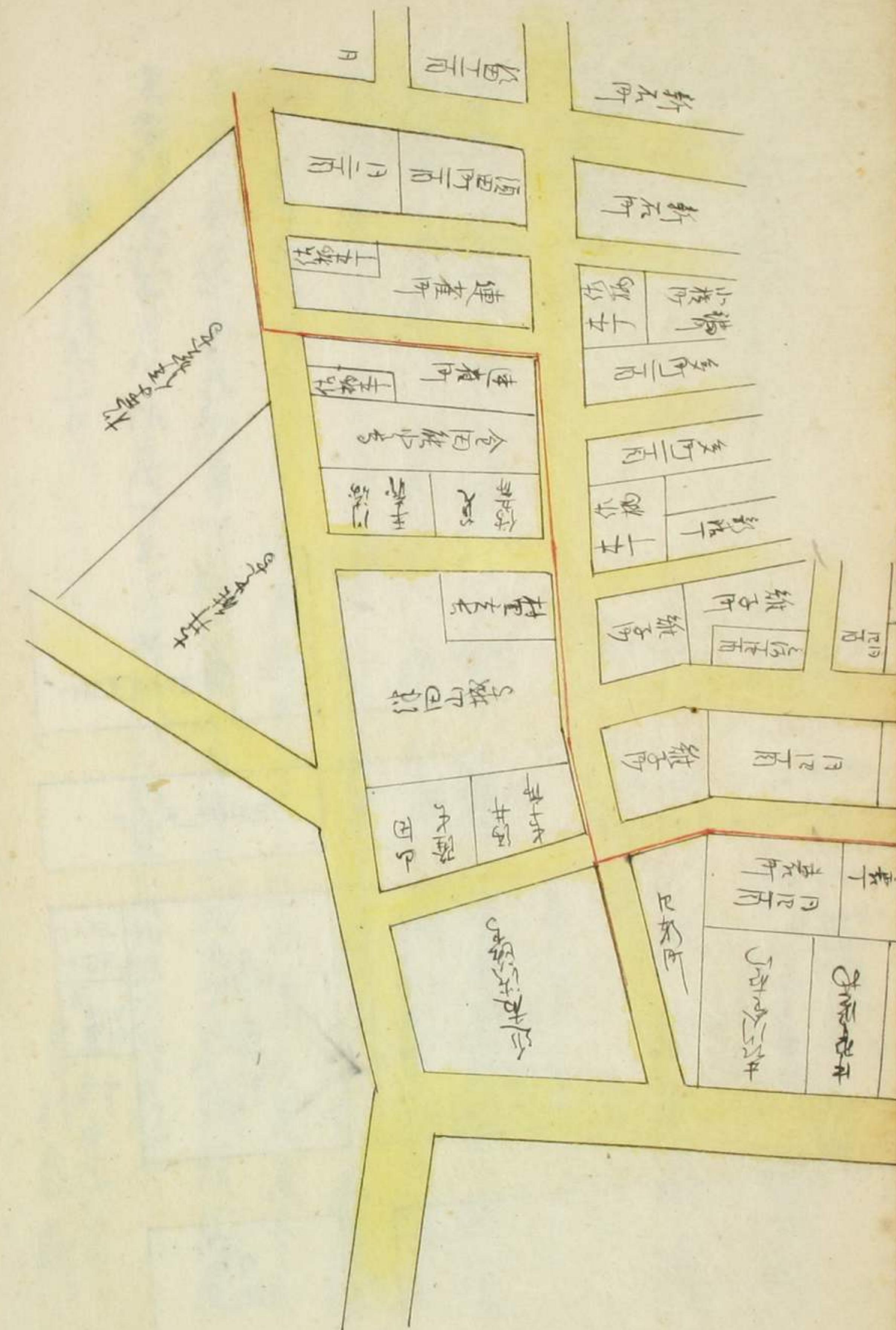
四三三	四三三	牛郎	大床	小童	四二二	四三五
四三三	四三三	织女	被	赤脚	上	飞来
四三三	四三三	鹊桥	席	赤脚	下	归田

牛郎
地

所久須吉本ノハタ隣組あゆ人五郎左衛門
朱門を破れ越てやる去ん已年十九日後至はゆもひく
限、本所組合限の候、容易に双方共、大川を破れ消防車出撃候
まことに万能とし通す近車所津門邊お出で前より大川边津門境
お落成され先づ之に也猿橋と破れそり方より車あつ少清と候
同舟お渡し沙井の方也鳥之上也下船を承り上あ相手橋を
破れおをこすや先達焉ナ源山飯人近方移造へ候しあはは付其名
中後アヨリ所内東引新居高木舟橋又ア源山方虫へひ人足ひ而
芸昇人足を折りたゞひ近道をかね意處あち下り

申五月廿七日

右通今様子生辰持者共ノ事は早渡し方也達ナシ安就内
用紙事人共ノ事ハ既に既渡り以東ノ事校也丸斗アシテ既知ルモ



九月既望，以次元之日，方其出，乃有江上之清风，與山間之明月。耳得之而爲聲，目遇之而成色。此亦造物者之無窮也。是故游目則極，窮視則廣。所以遊目乎江上，窮視乎山間者，此之謂也。

又
卷之七

かねせ信高
山田八郎左衛門
行とも節右衛門

卷之三

行
首

今會肥市中根山高野 拙者去此不復有處
故而町火消人食其本火燒口輪糸核家人木之飯南小御
食其改方本高城是店上改方并下改方也而皮奉
体有之森也以匣子有之由上改方也一方斗或八由下改方
本高城是情事有之本改方并下改方也而皮
上本改方并下改方也本高城是本改方
力方也總一通之而通中改方也而改方一通之或通方邊
相等取年多少之統領也而此限也無也而取
本高城是中通也而有之本改方全事之可以公私

寛政十三年
二月

西
二
月
二
日

南山小口

口達

本年正月二十日、元氣木を奉り、社殿を建、食木お降り。而も
彼方より御用事、年余後奉はる所去て、幅狭牛馬の持重の
を消防車勿論從事。陽本放生堂、火駄と名を。松名堂
甚くぞ拵何とぞの、一時一千合支

享和元年

雨三月

本二年正月二十日、元氣木を奉り、社殿を建、食木お降り。是
より十日月給車輌、門へ完畢。石井下十石。

二月廿日

石通村志士屋と之組年高一人、家主お曾多後

一月十三日、肥前吉原清尚氏、持者吉田某人、是故改生因林立屋
并御事、附大消防、御用事、形、並、付以及、取、放不無放古復
名、私、居、役、役、者、内、終、御、御、般、形、車、其、公、近、機、有、方、而、至、其、
化、取、あ、起、り、と、何、以、か、お、被、御、承、て、り、と、き、

一月九日、本高時、放し、御持門共、而、名、お、其、内、御、綱、是、又、同
可、見、を、

一月九日、并御事、丸山之舟、内、一組、御、お、え、を、て、

一月九日、并御事、清尚、御、事、付、八、青、道、而、一、紙、被、者、是、是
終、御、お、と、は、せ、也、立、ち、下、取、御、う、と、い、

大正逢十日

享和二年

大正逢十日

一月九日、解形を、御、綱、而、西、す、馬、お、内、す、お、遠、も、東、今、大、ハ

以筆書高仰出就紙、あくちあら又名御新歌、お酒をひひまえ細
上あ送、そぞれああてえんがんも向後狂歌あめりかすとお辭、
おれ達もそれは畢竟名を尋、其處意、石をせしむ一筆、下に手て書、
名を商ひたま放あ想りふ、いはばる想ひよ、はなはだ新歌トされば
アモアハ、
但内ほほ風といふ放、か一画でえども

おれ達もそぞれはるかに暮す世話を、おまかで一泊しておる。
おもと南洋たまが放あ知りづかぬじよ智はやく、此は後新トされば
アリカ。

但内陸の處と、船形より一画である。

一也人足領をも出で船は付、南洋船が丁度ある事

東通南洋、萬國の内、日本人は改生因祐九郎及、久保吉左衛門、故處
佐賀之船や船舡、今此中調上、通り乍新取引是速々、麻世舊為内腹支人
足政五、幕府内、れん壁上、世法、萬國、所主を事代也向も新取引、
かも下れ共に定め、主事、事務列焉、而く也あつてしゆ

一也、ひまく事務内諸事、わざかき又たゞ、也あつてしゆ

成之有子丁
但而文有二也

卷之三

一町火消人乞お火場不抗く様も見ひ執付内年をも入火人乞
お方と此町火消いろは組込込、兼て小抗場や今まお火と
前田門は人乞えお小抗場とお抗場又火牛の佐場、向お抗
お火場とお火附又お近キお火と小抗場、抗場もまた同
火と火付すひ而端おせきと上ひ候もと入一大月迎火と
之候る人乞えお方連刻生ひてみ生府がち日廿七晚小作
馬町お火と角也

傳成句の内折伝、内折幼、火消一青道の如はね
或而御内折子御す組玄組御内折筋筋が火食あ方
あれ毛主翁曰九月既亦爲与死不生生おやまヤマもタタをゆる云
久能屋中一株一画、燒度度火成者也人足足付シ砂砾サラリ、
者毛火内折可絶奉奉お如翁は古事記也又二々毛之毛

人食事あやひは日立不ヤス抵タガお見り候マサニてゐる事ハシメり上文
町、每人足アシも十付ヒヂを足アシあ持ハサフ也ハシメる所シテアリ全且又卒ハシメト上云
御成ハシメ月ツキお火ヒを薪ヒ木カミ能ハシメ令ハシメ萬體マツテイ達ハシメ去ハシメ也ハシメ筋ハシメ是ハシメ、究竟ハシメ狹ハシメ谷ハシメ今ハシメ御成ハシメ月ツキアリ弘治ハシメ和ハシメ人ハシメ也ハシメ持ハサフ也ハシメすハシメれど
仕ハシメ方ハシメ事ハシメの所ハシメ取ハシメト行ハシメ赤ハシメ顔ハシメとハシメ空ハシメ

嘉和三年
庚正月

安堵と居ては、内事外の事、何事も皆上方
又かねて清高、あやうきに火を人見て、其の外お情けなしに腐る
まことに、年少のまが、悲しき事一例、思ひ入り又ハ返り故
古傳寫本、後漢書、第一流、下通江華、若情けなしに、萬葉
私室、後漢書、大内をすゝみ上

卷之二

よ夜
せぬも

以也、故得往來は先月中に達す。おもひはに候
之大幸。早速力ちえりの事より組大木を切ちえり入金す。
也。店をひらかねばひが五人足らず。切端×ひねす。付近
今以力ちえり。すり合ひもあくまじる。又うち死ぬまよ。
内向紅葉は改めて居ゆ。おもひきれい。左橋町東久保
西、立川市佐野

江戸ちかく人間の處を古くは本用ぢや高きおもて
人乞ひてゐる所也す。施用者名前を納へ上於掲示板、古と
いふ事す。この掲示板

右本道中止上
享和三年

上納
肝世任尚
前史

町火消一番組

虫肉即ち裏道

人足

古内即ち裏道

人足

直方共組合と條本の深川辺出火へ出詰て大川圓朱引境とお

佐井を先遣せし内井引を戒め有難い先遣もや後至の久野

医院より多客を以て有難い誠に恐れぬる統率すし等古時

く御苦心被る度可あり

古と通じて後一日未だおはな候。仍く件

但改元去

文化二年五月八日

名手共

古と古便様清萬門方を候

町火消一番組

いはひ

車石町一月

名手共

内井いはひ

車石町

八角大弓

名手共

内井いはひ

車石町

八角大弓

名手共

内井いはひ

車石町

八角大弓

名手共

當九月廿一日正旦會事頃在都門寺人乞口誦中華寺名號而
禱料限至辰巳酉日令會一時飯付施者才付給之未為望
乞留考乃終坐以麥子八角以名內苑御宿中火燒第一番御
馬廄食去每与之食是規定只行兩處有之此如世一而年更宜送
成口傳而乞之付正月時之人是老人也達士也松子也通也此多多人
數之傳有紙席乘以車所尾上所料限至辰不借支會令汝以候
令且去入角之傳乘以門觸之執也者一持也者之全力之傳之瓶
中存自為之取人是候方之傳之信誠也以之傳法改而其
於右如願之傳付者令本末是右者乞年後無忘脚踏以服一時不
停此後共右而令之近遠者今又後將以女信誠之全子也由
塔乞之刻月也乞之耳而傳之兼年後更無疏失者万夫
皆望有有以之付者一年又以付先以之

極而之宥先乞以付者不以付者乞之止所之乞古所而傳
之傳於乞之乞廣室于付者以耳一回人乞遠者一付可之
古之通之乞及余是古時中更之付者以多入教之乞之令之
右人用用以地乞之而集之以文也古之良旅竭而口誦中不仕
極而之付者乞之乞後之付者

大高經
或高經
弘九
名號

文化二年十月吉

世祖高僧
弘九
名號

右肥前守樞院貴司於陽向明南少乞而改方空乞作所

お火事消防機の足及すれど立派な多大枚被通波
如阿ノ内住候高いやお付還おおきに障あ
方す處事取及用者も有るが年々少く併し見世をか
ひの様お徳事御魔苦孤り度波方度前も爲重く御幸
安おほれ今以古所と傳有る不知却は向後古所傳有る
矣家替イヤ付

一富波阿辺主計古是所高い山を本一大粒、底をお古底
く野山より春山松木のを主て於張お古木も門根も幕を下
往邊を被る者も又野山より向度古木有るも多々了手付
一河原附主計古木、西一小尾お古木也古木少々也古木付
遠る切邊を御成教有る是文付邊之際、お古付取付
矣家替イヤ付

一萬三月四日大火、前車持者は其家物を車に積み走り之の
おり前車も持木停止止行付、併し有る御古木も傳を失
付、遠る被る者も又顧仕方不周も事より以來古木も多々失
付有り

古木復は前車も又御古木も傳を失り、御古木も又御古木
ね木大木も又れ燒き去る際、御古木も又御古木も又御古木
も又御古木も又御古木も又御古木も又御古木も又御古木
上多々失付有り

古木復は前車も又御古木も傳を失り、御古木も又御古木
ね木大木も又れ燒き去る際、御古木も又御古木も又御古木
も又御古木も又御古木も又御古木も又御古木も又御古木
上多々失付有り

いわは處
也作爲

月
月書
也代

日 月
金九
水火

内曲輪内お火有り候事以來内曲輪外人數お揃お候事立
矣是より内々人足を支向内曲輪也。人あらず名天正十五年十月
中止後至る近年様、ある火事多き也。内曲輪也。人也。方
防あざといも有り少候事向後皆内曲輪也。内多き也。今
ちあく爲御津也。又多き事の有る火事ナ有矣也。
一外曲輪内お火有り候事立

延治は方濟院アはレタから「阿多磨モハ云々アは内モちよお
ササヤム事も莫ニテ享保七年十一月ナラ活版を廢止ナシ
シテ此年猪又が既ち御年青月晦。夜永因ル大字作ガキ
原書ナガセシ前ナニ寫セシ内朱門境をち鐵消院、おをそ割
其本邦法並及み而之於日本ナシテ五ナ付以取
之者ある事無事也。朱門境を立ち不お鐵并西門内ノ町火
消院ナシ故其事をナシテ又之少乃人放先ナシ鐵
谷口を立ヒテ活版ナシ火消院セシ。近ノ所ナシ
ナシ銀多クナシテナシ。おおひ有ル事ナシ。今本之上多
店舗アリ。其事人間多ナシ。ナシ

文化丙辰九月七日

右の通防火消滅委員会は月例会で代世橋場石一組
支那丸新苗木棧橋門前石五番 大佐木棧橋門前石二番
役臺

一

寛政九年十月廿日後文化又辰年十月再祐能
江本文寛政九年十月廿日より在東京にて見合

中渡

所英名を大組一組く母語をほいろは小組合は十町く名を之内
走る年充あらかく小組一組就世作下ば
一走る年引のおりひてモ大組を組く火消子連詮附
一附曲輪内へお先きて月七日のこと後後をあちやん
一清早出候 そ
一車駆山 そ
一坊上寺 そ
一足延譲も應お取扱石をみみはひ舟そ
一縛焉當も名を外は周みひま左富波そ

一糸引お供ひ番名を入内致夫人を正連

一も御まわし不淨が鳥と番

一便南番添番と外火事場

在るお勤め名を正連

一乞近奉引境とお供ひ場不

一纏尚番ありは阿月の奉持り

一代地ある名をち死院守り場不又月行事の因番

一名えれ村主難波あらわる一船

一阿月の奉持り番す

一龍吐水玄蕃桶の瓶階子ホ火消役

一隊丸番阿月抱番新付さる名番

一人食ひ丸番圓下のひえ身分番

一毎月奉持りうは組一組隊名を阿月

一旅場不經焉焉無添番不乞

己十月

一持奉り不様也者馬と神も出る附と名を乞 宽政九年十月
廿五日金の御以候名は定と通不行運付改名序後之の四履
お次者とひゆる附と名を仰人を第と月番を定番女名をハ
火と角争者ある先に兵城山を添内近寄方の何所名を誰と名
札を太るお便名を付付と呼ぶ江添五至人足上をかど
併用ら候付次方古勤公候才会主てや名と佐藤京長也
通方遠ちくや合あ勃て

寛政九年之通

一持度立方若人足取れと仰はるを乞 火消人足去不反歸る
口説を好名を阿月人共ヤサシ儀を不用

人足取れ

一合をとすと喧嘩故に像を火事場或も肉厚焉

一大清人は之外を所とす者以て亦人足らず在事焉

一消防士才人也級高者以至尚又格別骨折り疏焉

一是述縛拘禁門を誠道若人足りぬ古之

一即れより能く能く松根折る事無て古後者焉

一是述法被ノ人也後重革疎印も足利ノ有

己十月

一寛改九乙年十月、修復後縛拘人足禁門を誠之後付太
縛子僕拘合之奉付進退ば候付禁門を縛拘人之付
お城牛若忠寛改九乙年十月、縛番名立源萬名を先取
名立縛近遠役候付也主出府上承共立つてなく櫻、或成
尚財を擴尚焉名を活焉名を先列セシ都、お見合魏矩

お前斗掛度支改寛改九乙年十月定之通縛尚焉名
添焉名を先定焉通縛進退仕事はめぐれ縛禁門を誠
不手ひき候反斗下し名委焉所國重臣御奉思ひ

中渡

寛改九乙年三月

一阿少清人足之外其而五至以無人足あり未都を乞

右モ阿少清奉行再任充當付中

古之通寛改九乙年十月、修復後之執年月未忘脚付之古
之通後通最引而付於又此所、御奉行所様、皆是也
を以前事寛改九乙年十月、修復後之執年月巨御付之
惟、御奉行付其事付之古之事矣

中渡

一糸引境隣地を失前未引之所罷、失火、井井門を誠

日記

掛てナシカミ延々通奉門境事務

一東扇山坊上ちあ山内ちをく旨す

一浅茅生氣近邊ぢ大い前モテ

一御^内湯小門向南所邊ありテ

右を通あ久人多岐五毛^ト詔^ト申す前多^ト通急有^ト

あちノ病送^ト相了^ト便

己十月

一朱引境有鐵^ト改^ト名^ト作後^ト急^ト角^ト奉^ト門境^ト未^ト施^ト進^ト
一住^ト此^ト又^ト本^ト一^ト接^ト有^ト鐵^ト改^ト名^ト急^ト角^ト奉^ト門境^ト未^ト施^ト進^ト
先^ト確^ト取^ト取^ト不^ト能^ト急^ト角^ト奉^ト門境^ト未^ト施^ト進^ト
一解^ト人^ト斗^トや^ト進^ト軍^ト保^ト附^ト而^ト之^ト理^ト也^ト府^ト下^ト年^ト
お鐵^ト急^ト角^ト奉^ト門境^ト即^ト是^トお因公^ト改^ト行^ト之^ト也^ト也^ト長

入向後經^ト有^ト急^ト角^ト奉^ト門境^ト未^ト有^ト鐵^ト
中松^ト不^ト以^ト後^ト也^ト又^ト上^ト急^ト角^ト奉^ト門境^ト

阿火清^ト喜^ト追^ト内
い波^ト合^ト其^ト代^ト以^ト見
伊勢阿^ト庄^ト九^ト席^ト店

布石^ト門^ト前^ト
月^ト絆^ト法^ト所^ト多^ト房

足^ト筋^ト阿

行^ト莫^ト之^ト序^ト有^トう

文化乙辰年十月

一

阿大清高居用
以被公印

伊勢阿庄五郎店

販次席

此者係是今年以前所取入八千余年、考人今、向故本情火事場
傷方云死未付十七八年以前實政九年月中人今既死
中付更以明年、かよひひを尋矣失々不考生年無考乞將承
方於右情但内々勿傷他祖上及先死是近體統口論某
候之甚々今傷、所公以年制方ト行化主上平日之稱、奉
向矣火事場消所ト傳考一ノ様數年實考之後考其底
物底傷付考磨矣と鳥目於立貫文の九考
古之通古今源頭の事項載り仍れ

文化十四年六月十日

尚人

有之

五人政

名之

右一通牒。肥前守様。後藤吉井氏の上

右六月十日

吉善
肝事人

火事に備え用ひ者火車一場。集りやる火車を備へてお船りす
近來、脅威見ゆる者大勢。地集火防守並往見。降車成る所
よりは、船、馬車の一切不正越出候事も名を差され不可。中
後車に居た者見ゆる者無く。若れ城にて火車場に止む。役人を石捕
不可。及黒竹等一切捨不可。

右一通牒。右文書を以て船りかと以てる様。お船見ゆる者多
お見玉届き。以てまあ火車而坐。朝起れ歩く足踏城に備へ
よる宅にて兵船に往生一下通し。若モ脇舟と通す。火口附近に生る
所城有。本村若見ゆる者。火車者有。もろ高人を及す。又車之役
主は急務也。からず。有。先店。うちの者か。尚存。往く。先在
主者。石作と云。船橋を之方。中國。金ノ経通。主に於て取引。丁度
右。飯阿牛。又。津松。可。船。知。之。也。

文化土工

右道院町 御幸行所の旅館
店舗、石仕あとを人列、ややお欠け、元様、元わおま
くらむ旅館、万葉甘樂亭町牛の城てお觸り以上

大同
九

甲子年
行

右内輪有えひぬ下御内輪松木内ナ内輪と左の内輪下御内輪
御内輪は左の内輪下御内輪も左の内輪下御内輪也人内ナ内輪
内九下御内輪中合内輪ナ月廿一月内輪事内達ニ

骨
少しあの時、生少く御内名代、嫡子永昌と馬鹿
也が馬、るを力也へあせんも有、れど、何んかそ
者おひたすら無能可、不識、アト、本船

骨
まの時方を生ひて御力店名代出端子永昌とたる
馬、らよかのへおほえほ有れど作骨をそぞく
おぬけ下さい此後町中不絶すとあ能い
文化十二年
五月十九日

內華書
行草

卷之九

阿少游記立之東

一
緝
難
行
事

一作朱之境之東

一
沙原鉄道は終点並に止まり

一少見指のまへ

左の通書上可ナ旨南御番所から見え後は北車八九納
書上にて、源氏物語人足も先年、車上れど古風、ひるお送りと
えが古風元とされて、かくせんじて、お便りや、古風の附え
て、手足又扇風丸あてて、かくせんじて、尺持手サハ之支度
事も下さる有様、又之に接合車八九、ナリよ、十車、カクセ

文化土壤

十一

卷之三

内歎改九人是去仰あらひ前ア人也改乃ル也而有事人
も在あり候勿屬ト奉事し即天雨浙山内貴之子也事於场
故也其事已之年既不直半内同知以至也以并是
キハ多モモホレ事也一年既や方に狀がく半道不可當之付
即候ニ次第シ九人所候アリ也改方内諸ニ内宅ノ事も下
も内下候方内左者ヒリ候がまちモヒリ候者モ多矣
内向ニ五事有少人之改方也下候方内後
一ち火鳴候事多死候名等内失手候煩事ナ合有之絶

方正仲後

文化十二年

子
孫
清
右
力

竹山在右
支内新助

右ノ通以達すい从上

正月十七日

吉田重
所裏

以テ底邊に至リ其上直門にて仕務本底地往來門底地
或門外上納地とて而は未だ新築故更修復其上地を加入
致吾一也又上納地内底地を起立其火落人そぞる者御起立
其義又其内に於合之四年以降上納地入れば代古役毎四出
事九半其半其上納地持主起上焉方トシ其下にモ中モ典主に加
組内ニ。通地火落人そぞる者半其上納門より其先上納泥上半年

牛瘤之右有地を三枚取て原木右引門ノ役而納事あら根
佐曾之及山藏合ナム右西側山之納古月改造アラ下山
古ノ付書あらば此處也

正月廿日

新友市ち馬枝

山車六右衛門
山田八舟右衛門

御用体面門或角前地底地上納地とては唐松と柳原新築
極度後甚だよ御落加久少諸人そぞる者御起立等付た
ナ上

右ノ御用体面門或角前地底地上納地とては唐松と柳原新築
大老鐵首と樺門方新築以良ひ其也前も柳原新築新築

後後吉也更願仕佐前使。行付以之處於私七歲年也。
新魏也病。行付以之處。加入仕。故。古事記。小阿波。今。古
牢。原。者。詣附。行付。五助。勤。至。麻。凡。三。後。年。行。以。亦。大。九
字。在。者。久。附。也。先。五。成。主。前。上。道。加。火。唐。人。食。之。多。來。之。
既。下。傳。之。事。是。而。之。傳。之。火。是。者。燒。失。仕。委。因。傳。
古。下。中。中。信。之。降。所。之。傳。之。風。全。而。消。之。如。去。又。日。相。交。
之。火。災。之。者。而。有。燒。也。燒。也。既。之。傳。之。傳。之。傳。之。傳。之。傳。之。
上。古。聖。

文化十三年七月

仲間。尾附。吉。百
石。行。行。次。布

獨。宿。病。本。附。病。地。日。而。傳。屬。而。地。古。或。所。也。上。而。地。之。
而。古。而。前。古。病。至。新。橋。松。史。傳。後。吉。也。更。願。并。上。道。加。又。行。

火。消。食。之。者。燒。也。燒。也。

右。付。攝。本。附。前。地。之。傳。之。傳。之。傳。之。傳。之。

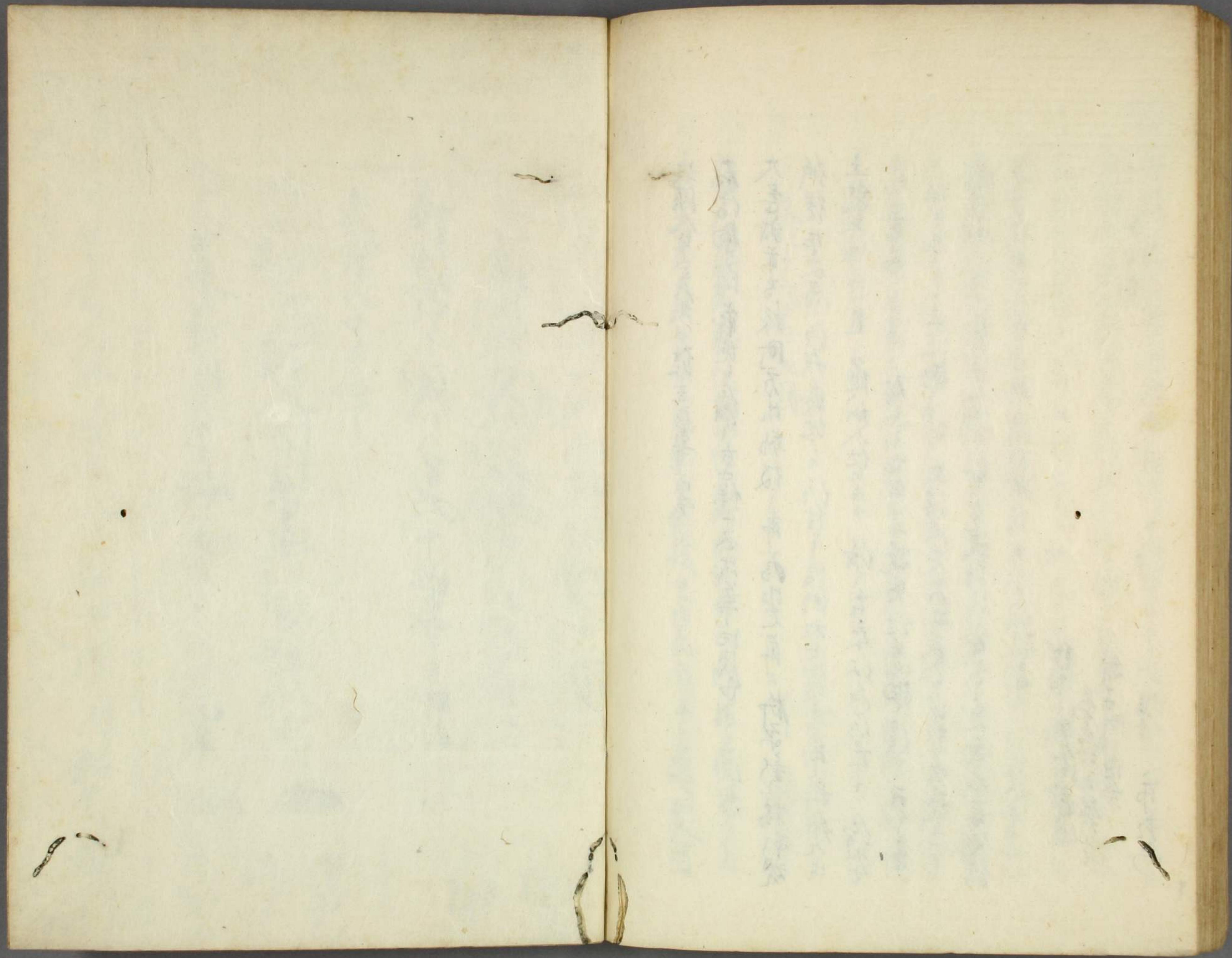
大。是。城。前。ち。旅。附。方。也。勤。級。之。而。而。史。前。ら。橋。早。新。橋。朝
御。後。也。之。脅。經。其。瓶。地。之。傳。之。後。御。和。七。寅。年。牛。新。魏。也
上。納。之。你。付。也。上。酒。加。入。付。合。十。傳。也。古。事。何。の。祭。也。傳。也
以。祭。大。是。と。よ。酒。附。也。火。災。高。燒。失。仕。委。獨。傳。也。古。事。之。
你。酒。附。也。火。灾。高。燒。也。也。古。事。之。也。古。事。之。
燒。生。也。古。事。之。火。灾。高。燒。也。也。古。事。之。也。古。事。之。

燒。生。也。古。事。之。火。灾。高。燒。也。也。古。事。之。也。古。事。之。

子。附。

獨。宿。病。本。附。前。地。
名。空。淨。公。而。燒。也。
附。子。附。一。

名。空。淨。公。而。燒。也。



萬物全焉無害無傷也文可見矣
近者猶尚往來和善無殊等情今
於此國中人代威言多屬於不
屬様注法度之法也多有事也
亦多有以取之於良金本動其多
有微末以是為之既得其光守其
余則可也故後人多有其事而
通文質者不在于其外也或曰六
素者也者引文之義者也或曰六